

山加積地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催の「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催の「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
① ほたるいか海上観光の観光船	「ほたるいか海上観光」の観光船が4月末から故障し、ゴールデンウィーク期間中、運休となった。再開には修繕や新規の買入れで高額の費用がかかる。確かに滑川の観光の目玉だろうが、季節性の観光商品でもある。通年で活用できない代物に、多額の投資をすべきか。それでも必要と言うなら、何とか通年型観光に活かさないものだろうか。	「ほたるいか海上観光」は滑川の観光の生命線であり、来年春の再開を目指し、新規の造船や中古品の購入を必死で模索中です。高額な初期投資や維持費、船頭の確保や運営方法の見直し等、課題は多いですが、市の負担を減らすため、国や県に補助を頼めないかも検討中です。今年度、初実施で好評だった3月からの前倒し運航は、来年も実施する方針です。滑川市沖から立山連峰を眺める富山湾岸クルージングも検討中です。市内の児童生徒への地形の学習や、市内への進出を検討中の企業関係者へのPRといった利活用策も構想中です。滑川固有の「ほたるいか海上観光」を武器に北陸新幹線開業効果を更に取り込みます。
② カモシカ被害対策	田畑がカモシカ被害を受けているが、行政に相談しても、何も対応してもらえない状態で困っている。泣き寝入りの状態だ。法律の関係上、駆除できない種類のカモシカだそうだが、それなら、法律改正を促すとか、何とか対処してもらえないものか。	本江地区に出るのは国特別天然記念物のニホンカモシカで、駆除できません。長野県では、ニホンカモシカが県の重要な植林木のヒノキへ大きな被害を出すため、特別に駆除が許されています。法改正は容易ではありません。県に市内のニホンカモシカ被害の事情を常々相談していますが、被害額が小さく、県も国も動きません。被害額が少額でも農業共済組合へこまめに報告すると同時に、可能な限りの自己防衛に努めていただきたいと思います。
③ 石田橋の老朽化	以前に修繕してくれた村中橋の500～600メートル上流に、石田橋という橋があるが、欄干がボロボロで、名前の看板が外れていたりする。市側の点検調査不足ではないだろうか。	明日すぐに現場を確認し、対応したいと思います。なお、農道橋の村中橋は、土地改良事業の一環で、橋桁等に修繕を施しました。
④ イノシシ被害対策	昨年、本江地内でイノシシ被害対策の電気柵設置を要望したが、先日、小森地内で電気柵が先に整備されたと聞いた。本江地内の電気柵の進捗状況はどうなのだろう。そもそも設置してもらえるのか、それとも無理なのか。	本江地内での電気柵設置については、平成27年度の予算を充て込めるよう、国に要望中ですが、内示がまだありません。ただ、対象に入ったとの噂もあります。判明し次第、すぐにご連絡します。なお、小森地内については、前倒し実施分の際、すぐ名乗りを上げていただいたので、即、設置に至ったものです。
⑤ 滑川と上市をつなぐ遊歩道構想	市街地・町部では、スポーツ・健康の森公園や、いをのみ公園などが次々と整備されているが、山加積地区等の山間部住民はこれらにアクセスしづらい。過疎化も進んでいる。こうした中、上市町に至る小森地内・花岡平の旧道を遊歩道として整備する構想を、上市町側から地区に示された。例えば花岡平は見晴らしも良く、遊歩道が出来れば山加積地区の活性化が期待される。市も協力を前向きに検討してほしい。	ご指摘の構想について、市にも上市町側から話を持ちかけられています。担当者にしっかり検討させます。
⑥ 公共下水道の敷設	本江や小森など山加積には公共下水道が敷設されていない地区があるが、将来的に整備していく計画はあるのだろうか。	市内の公共下水道の新たな整備は、中加積、北野、四ッ屋の各地区で進められています。山加積地区でもかつて、県の農業集落排水事業を活用し、農村下水道という形で敷設する構想がありましたが、居住人口が少ないこともあり、話が進みませんでした。公共下水道の敷設を待たず、既に合併浄化槽の導入に踏み切った世帯も多くあります。類似点も多い、南砺・砺波市の山間部の例も研究し、地域の皆様のご意見・ご意向も伺いながら、山加積地区に最適な下水道事業を模索します。
⑦ 南部小の鉄棒の老朽化	南部小の鉄棒がさび付き、腐っているため「使用禁止」の張り紙がしてある。高学年なら理解もできようが、低学年の子どもは使いたい気持ちの方が勝り、いつケガしてもおかしくない状態だ。	鉄棒については4月に業者と現場を確認し、修繕の準備を進めています。現在は応急処置として「使用禁止」の張り紙をしましたが、体育の授業で使う設備でもあり、早急に直したいと思います。

山加積地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催の「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催の「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
⑧ 地区内の地鉄駅	上市町では、無料の駐車場を備えたパークアンドライド式の立派な新相ノ木駅が出来た。利用率も高いと言う。また、上市ー中加積間には新宮川駅ができた。上市町内では、町が協力し、地鉄がたくさん駅を整備している。一方、中加積駅など、市内の地鉄駅だが、管理状態も悪く、ちょっと寂しい状況ではないか。	駅の整備を本来担うべき富山地方鉄道は、財政事情から単独で整備できないとしています。地鉄本線を唯一の鉄道網とする上市・立山町は地鉄駅の充実化に必死です。本市も中滑川駅の農協会館跡地の用地取得や、西加積駅の駐輪場設置、中加積駅のトイレ整備など、地域の強い要望を頂いた案件を中心に充実化を図っていきます。パークアンドライドのご提案も今後の勉強材料にいたします。
⑨ タラソピア等のリニューアル	北陸新幹線も開業し、観光客誘致に力を入れているが、タラソピアをはじめとする道の駅ウェーブパーク滑川の施設が開業以来、代わり映えない。耐震化の面でも心配だ。観光・集客の目玉となるよう道の駅一帯のリニューアルを求めたい。せっかく巨額を投じながら運営し、県外の人々にも定着してきたのだから、タラソピア廃止案自体に疑問を感じる。	タラソピアは外壁こそ綺麗ですが、塩水で躯体がボロボロになり、リニューアルが難しい状態です。設計業者も、これほど酷くなるとは想定していなかったようです。今後の維持管理には新たに何億円もの追加投入が必要で、タラソピアを取り巻く状況は厳しいです。また、ほたるいかミュージアムについては、施設内で上映する映像を更新するなど、適宜、リニューアルを施しています。
⑩ あいらぶ湯の深層水風呂	市民交流プラザの「あいらぶ湯」にある海洋深層水の風呂は、温泉に替わる呼び物として整備されたはずだ。ところが実際は10人も入れない小さな湯船であり、人を呼び込むにはちょっとお粗末ではないか。	海洋深層水の風呂については、一度に目いっぱい10人程度しか入れませんが、塩水の風呂でもあり、長く浸かれても、1人せいぜい15～20分ではないでしょうか。回転率の面からも、問題ない広さだと理解しています。
⑪ 宿泊施設の誘致	市内にはホテル等の宿泊施設が少ない。観光PRに力を入れることも大切だが、客足を止めるには宿泊施設が必須。このままでは観光客は滑川市を素通りしていくばかりだ。	北陸新幹線の開業効果で、確実に観光客は増えています。ゴールデンウィーク中、ほたるいかミュージアムは例年以上に賑わい、東福寺野自然公園は前年比1.5倍の入り込みでした。定住促進策が奏功し、若者の移住も増加傾向です。今後、市場としての魅力がさらに高まれば、宿泊業者の新規参入も大いに期待されます。
⑫ SLハウスの立地	東福寺野自然公園の宿泊施設SLハウスは、かつては見晴らしの良い立地にあり、夜景がとても綺麗で宿泊するのが楽しみだった。現在の位置からは、夜景が見えない。せっかくの観光の呼び物になる施設だったのに、なぜ夜景が見えない場所に移転させたのか。	平成4年の整備計画によると、パークゴルフ場とバーベキュー棟に一連の流れを作る配置を目指したようです。ご指摘の通り、折角の夜景が見えなくなり、本当にもったいない状態です。今すぐ移動させることは難しいため、新たな更新の時期に、検討材料にしたいと思います。今後はより、景観を重視した整備を心掛けます。